

つぼまゝどかりしつづりいたたき、夕顔
ういさゝりすた。金草の長襖とい
うのハ珍らしいと思つた。素直で味
けたは凡、そゝとこが哀感のある
所を味わすな。二年間の沈黙の
あとといふところだが、またすつぱく
た天やかな詩を大いにおぼそそい。